

目次

はじめに.....	2
第1章: 19世紀のオスマン帝国におけるアルメニア人社会.....	3
1. 19世紀のアルメニア人社会.....	3
第2章: イスタンブルにおける教会の建築.....	6
1. イスタンブルのアルメニア教会.....	6
2. アルメニア・カトリックとアルメニア・プロテスタント.....	8
第3章: イスタンブルに建設された現存するアルメニア教会.....	10
1. アルメニア・グレゴリウス派（アルメニア正教）教会.....	10
2. アルメニア・カトリック教会.....	17
3. アルメニア・プロテスタント教会.....	19
アルメニア教会年代順.....	21
アルメニア教会の位置.....	25
アルメニア・グレゴリウス派教会.....	25
アルメニア・カトリック教会.....	26
アルメニア・プロテスタント教会.....	27
第4章: 教会に関するデータの分析.....	28
1. 教会が建設された土地.....	28
2. 教会に隣接する学校.....	28
3. 教会が再建、修復された年代.....	29
4. 俗人有力者の影響.....	29
第5章: 結論.....	32
参考文献.....	34

はじめに

多民族・多宗教社会を特徴とするオスマン帝国は、18世紀後半以後ヨーロッパ列強諸国の政治的、軍事的な圧力を受けるようになっていた。19世紀に入ると、オスマン帝国内において民族的な独立や、対外的な戦争の敗北などにより、帝国の求心力はますます低下していった。このような中で、オスマン政府は近代化に向けた改革に着手していった。政府は、1839年の「ギュルハネ勅令」や1856年の「改革勅令」などを通じて制度的な改革を行い、帝国内の非ムスリムの権利の拡大や処遇の改善を明確に示した。これらをもたらした変化は、帝国内の非ムスリム共同体であるアルメニア共同体にも及んだ。では、こうしたオスマン帝国が近代化に向けた改革に着手したことに対して、アルメニア人社会や共同体はどう変化していったのであろうか。本稿では、アルメニア社会の変化の指標としてイスタンブルの教会の建物を取り上げ、それらをめぐる状況がどう変わっていったのか、ということから社会そして共同体の変化を考える。

本稿では、パルス・トゥーラジュ著の『イスタンブルのアルメニア教会』¹を資料として使用する。この文献では、イスタンブルにおいて現存する教会が、アルメニア・グレゴリウス派（アルメニア正教）、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントの3つの教派別に扱われ、教会が建設、再建、修復などがされた年月日、教会のある場所、誰が総主教のときに建てられたかなどが紹介されている。また、3つの教派の歴史、オスマン帝国において教会を建設する手続きなどにも言及されている。

本稿の構成としては、第1章において共同体を中心とした19世紀のアルメニア人社会の変化を述べ、第2章においてイスタンブルにおける教会が受けた規制、そしてアルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントの両共同体の改革を取りあげる。第3章においては実際にイスタンブルに現存する教会を、アルメニア・グレゴリウス派、カトリック、プロテスタントの3つの教派別に紹介する。第4章において、前章から得られる教会のデータを19世紀の近代化改革の文脈で分析し、第5章において結論を述べる。

¹ Pars Tuğracı, 1991, *İstanbul Ermeni Kiliseleri*. Pars Yayın Ltd. Şti.

第1章：19世紀のオスマン帝国におけるアルメニア人社会

1. 19世紀のアルメニア人社会²

19世紀初頭のオスマン帝国内のアルメニア人は、イスタンブルと東部アナトリアの各地においては、数万人以上の人口が存在し、また西部、中部アナトリアにおいては、小規模な共同体を有していた。そして、アルメニア人は教会を中心とした地方ごとの共同体によって、非ムスリムとしての基盤を形成していた。15世紀以来、共同体を形成してきた非ムスリムに対して、オスマン政府は自ら選出した長を持つことを承認し、ムスリムに影響を及ぼさないという制限のもとで、自由を容認していた。

「アルメニア教会」においては、アルメニア・グレゴリウス派（アルメニア正教）、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントが存在する。アルメニア共同体には、オスマン帝国の数箇所に総主教座が存在していた。そのうち、イスタンブル総主教座は、共同体の中心的役割を担っていくこととなった。19世紀以降の総主教座には、聖職者はもちろんのこと、俗人もまたその構成員として存在していた。俗人有力者とは、財力により影響力を及ぼしたアミラ層（銀行家、富裕商人、政府高官等富裕層）、新興の同職組合層、リベラル知識人などであった。アルメニア共同体の運営では、彼ら俗人の活躍が大きく、また多大な影響力を及ぼしていた。共同体は、地方ごとに存在し、それぞれが社会的な基盤の整備を行っていたが、19世紀前半にはイスタンブルへの集権化が進められることになっていった。

その要因には、改宗問題が存在する。総主教座は、オスマン帝国におけるアルメニア・カトリックの宣教活動に対して、18世紀から対策を行っていた。またオスマン政府としては、アルメニア共同体の分派に関して共同体の分裂状況を解決するようにと、1820年に総主教に要請をしている。後にアルメニア・カトリック共同体は、1830年にオスマン政府によって独立が同意された。さらに、1830年ころからは、プロテスタント宣教師がイスタンブルなどを訪れ、宣教、布教活動を行っていった。そのような状況下で1847年にオスマン政府は、アルメニア・プロテスタントの独立を承認した。これにより、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタント両共同体ともに独立がなされたという状況となり、彼らもほかの非ムスリムと同等の権利を獲得していくようになった。つまり19世紀前半は、アルメニア・グレゴリウス派のイスタンブル総主教座にとって他宗派に対抗する措置、共同体の統制力を強化していく必要性に迫られた時代であった。

そのような社会状況の中で、イスタンブル総主教座は、共同体の統治を保持していくために、さまざまな対策、施策を講じていくようになった。まず1つ目は、学校教育を普及していくということである。18世紀までのアルメニア共同体においては、司祭が読み書

²本節は、上野雅由樹 2010, 『タンズィマート期オスマン帝国における非ムスリムの「宗教的特権」と「政治的権利」：アルメニア共同体の事例から』未刊行博士論文（東京大学）pp.15~57による。

きを教えるといった教育であった。しかしながら、18世紀末ごろから19世紀にかけて、新式の学校の設立が相次いで行われた。この時期の学校の設立には、俗人有力者であるアマラ層の出資がかなり多い。共同体として、教会として新式の学校を設立していくにあたり、アマラ層は慈善的行為として学校の建設費用、運営費用を寄付することで財政的な援助を行っていった。ただし、この背景としては、総主教座が「規則」や「教令」といった形で新式の学校の設立を命じていることを考慮する必要がある。つまり、アマラ層が学校の設立に出資していった背景には、総主教座が新式の学校の普及を促進していたということが存在していた。学校教育を普及させていく主な目的は、聖職者を教育していくことにあった。この時期アルメニア共同体内では、不正による秩序の乱れが存在した。司祭を不正に無断で叙階したことや、賄賂を受け取ったことなど、聖職者として不適切な事件が起これり、これらの解決のためには聖職者自身の教育が必要だと総主教座は考えたのであった。

2つ目は、アルメニア共同体の総主教座内に、委員会を設置していくということである。19世紀前半、アルメニア共同体はアルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントの活動に対抗する政策として、学校の設立に加え病院の設立も担っていった。設立された病院は、孤児院や救貧院としての側面も有するものであった。イスタンブル総主教座は、これらの施設を運営、管理していくこととなっていくが、これは同時に今までの宗教的な役割に加えて社会的な役割も担っていくことを意味していた。つまり、総主教座の職務の量が増加していった。そして学校、病院の運営や管理においては、財政的な面でアマラ層などの裕福な俗人有力者に依存していかなければならなかった。

これらにより、アマラ層などの俗人有力者は総主教座内でも実質的な発言権を得ていき、総主教座側も彼らの発言に譲歩していく構造が構築されていった。一方において、イスタンブルにおける多くのアルメニア人は、彼らの職業に応じた同職組合を形成していた。この同職組合の代表は、アルメニア共同体においても代表を務めている場合が多く、総主教座、アマラ層、そして同職組合の要求を調節していく機関が必要であった。このような背景をもって、総主教座内に調整機関としての委員会を設置することとなり、1840年に常設の委員会が創設された。また1847年にイスタンブル総主教座は、オスマン政府の承認を得て俗人評議会と聖職者評議会という別々の評議会を設置した。

これまで述べてきたように、総主教座内において聖職者でない俗人有力者の発言権が非常に大きな影響力を有していた。そのため、いままで聖職者が本来の職務として担ってきた宗教的事項に関してまでも、俗人有力者が関与してしまう可能性があった。そこで総主教座内において、宗教に関する事項は聖職者が行うように聖職者評議会を、政治、社会に関する事項は俗人有力者を中心に行うように俗人評議会を設置し、両者の職務を明確に区分しようとする動きが見られた。

そして3つ目は、イスタンブル総主教座自身が、定期刊行物を発行していくということである。オスマン帝国では、19世紀の後半にオスマン語で多くの定期刊行物が発行されていくが、イスタンブル総主教座は1846年に『ハヤスダン』という機関紙をはじめて

発行した。『ハヤスダン』の発行に関しては、総主教座とオスマン政府との政治的関係が背景として存在した。オスマン政府は、『ハヤスダン』を通して政治に対する論評、批判的な内容を掲載して発行しないように、毎週発行される前に新聞の検閲を行うことを決定した。総主教座側も、検閲に関しては承知し政府に批判的な内容を掲載することはなかった。そもそも、総主教座自身が定期刊行物を発行する目的としては、主にアルメニア人に対する教育の側面が存在した。『ハヤスダン』を用いることにより、アルメニア臣民を啓蒙しようとしたと考えられる。また当時、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントともに、定期刊行物を発行しており、総主教座はそれらに対抗する措置として、自らも定期刊行物を通して自らの情報を発信していく必要性もあった。

以上のように、19世紀においてはオスマン帝国の近代化政策とともに、アルメニア共同体の変化も顕著に見られた時期であった。共同体の変化は、当然のことながら彼らの活動の中心となる教会という場においても、反映されていくこととなる。

第2章：イスタンブルにおける教会の建築

第1章で述べたような状況は、アルメニア教徒たちの信仰の中心的地な場所である教会に、どのような変化を与えていったのであろうか。イスタンブルを例に考えてみたい。

1. イスタンブルのアルメニア教会

イスタンブルにおけるアルメニア教徒の共同体は、1453年のオスマン帝国による征服後まもなく、メフメト2世がギリシャ正教会にならって、アルメニア教会の首長（総主教）を任命したことに始まるとされてきた³。このような形でアルメニア人ミット（共同体）が創始されたとの説は、近年では否定されているものの⁴、イスタンブルの発展につれ、オスマン帝国の首都イスタンブルにおけるアルメニア教徒の人口が増加していった。やがて各地区において、彼らが共同体の中心となる教会を建設するようになっていったことは間違いないであろう。数世紀を経て、アルメニア教会からはカトリックやプロテスタント各派の分派が生まれたが、アルメニア・グレゴリウス派においては、19世紀にはイスタンブル市内に55の教会が存在していた。しかし、現存する教会は33で、22の教会は現在残っていない⁵。

オスマン帝国時代、教会は厳しい規則を強いられており、各地区に教会を新しく建設することは、基本的には禁止され、損害を受けた教会の修復でさえ、ディーワーンと呼ばれるオスマン政府の、御前会議の許可が必要であった。それは、オスマン帝国の大多数の臣民がムスリムであり、イスラーム法上では武力による征服地には、キリスト教の教会を新たに建設するという規定があるからであった。教会の修復許可を出す手続きのためには、その対象となる教会に、政府の宮廷建築家や調査員が派遣された。彼らは、近くに住むムスリムの長老たちを集め、以前からその建物が教会だったかを証言させ、建物の窓や天井、屋根、庭、柱の長さや大きさを計測した。そしてその調査後に、それらを広げたり、大きくしたりしないという条件のもとで、修復の許可が出されていたの

³ H.A.R Gibb. and Harold Bowen, 1957, *Islamic Society and the West*. vol.1, part2. London. pp.207~261.

⁴ Benjamin Braude and Bernard Lewis eds., 1982, *Christians and Jews in the Ottoman Empire*.vol.1. New York. pp.69~88.

⁵ 今日トルコ共和国では、約5万人のアルメニア人が住んでいるという。その大半は、イスタンブルにおける33の教会がある1つの教会区に所属している。かつてオスマン帝国時代にはアナトリアの全土にアルメニア人が住む村や町が存在したが、1915年の追放事件を経て現在では、アナトリアには6つの教会が残るのみである。今日、ハタイ地区のワクフル村を除いて、アルメニア人が居住する村は残っていない。総主教、2人の司教、2人のヴァルタベドを除いて、トルコのアルメニア教会には30人の司祭がおり、そのうち3人はアナトリアにいる。以下、本節は、次の文献によった。Pars Tuğraç (1991), pp.77~79.

である。修復が完了すると、すぐにディーワーンに報告することが義務づけられ、その教会が礼拝のために再び使用が開始される前に、再度調査が行われた。その調査では、修復前に計測したものと一致するかどうか確かめられた。

このように、教会の建設・管理は厳しい統制のもとにおかれていた。しかし、前述のようにアルメニア教徒人口の増加にともない、教会の数が55に至るまで増加していることは、こうした統制の一方で、実際には教会の建設が認められていたことを推測させる。オスマン帝国以前に存在し、その数が多かったギリシャ正教会やシナゴークが、アルメニア教会に替わっていったとも考えられている。

教会は、国家の援助は受けられなかったものの、免税がなされていた。19世紀半ばまでは、一般の信徒たちから集められた献金は、教会の財源にとって主要なものであった。総主教座において、通常の収入は手数料や教会上納金などであり、アミラ層などの俗人有力者からの寄付による資金は、収入の大部分を占めるものではなかった。しかしながら、19世紀半ばになると、事態はかわってくる。教会組織が近代化にともない学校や病院を作るなどの活動を始めたためである。アミラ層などの裕福な俗人有力者は、新しい学校の設立、教会の再建、修復、総主教座の負債処理にともなう資金を提供することにより、総主教座内においてその発言権を強めていたと考えられている。

1848年10月25日にアルメニア総主教に送られたスルタンの勅令では、オスマン帝国領土内にある教会の修復や再建に関して、アルメニア教会に対し以下2つの状況が示されている。1つ目は、教会が事故などで焼失したという場合、または放置していたことによって廃墟となった場合に、再建を認めるというものである。もう1つは、部分的な漆喰塗り、塗装などは許可なしに行ってもよい、とするものである。そのようなすべての修復、再建は政府の宮廷建築家の調査と一致していなければならず、再建には政府の許可を得ることが義務付けられていたが、後者のようなわずかな修復に関しては許可を得なくても行われるようになったことは大きな変化であった。この結果、19世紀中葉以後、アルメニア教会は、教会の活動の活発化もあり、「建設・修復ラッシュ」を迎えることになった。

再建や修復では、教会の鐘の建設も重要な動機となっていた。オスマン帝国においては、教会の鐘に関しても規制があった。イスラーム教徒の生活の妨げとなる場合には、イスタンブールで教会の鐘を鳴らすことはできなかったためである。しかし、1839年のタンズイマート改革に関する法令にしたがって、礼拝のときに鐘を鳴らす許可が教会に与えられた。現存する教会のすべては、そのときに鉄製の鐘塔を建設した。1839年以後に建設された教会は、石造の鐘塔を有している。これも、「建設・修復ラッシュ」を引き起こした大きな理由である。

イスタンブールにおいて、1839年以後に大きな鐘として使用できる鐘はなかったので、ギリシャ正教会の庇護者を自認するロシア帝国皇帝は、これらの鐘のない教会に対してロシアから鐘を送った。また、ガラタとクナルアダにある聖クリコル啓蒙家教会の鐘は、エチミアズィンのカトリコスであるケヴォルクIV世から贈られたものである。アルメニア人

はこれら様々な方法で鐘を手に入れるようになった。

2. アルメニア・カトリックとアルメニア・プロテスタント⁶

19世紀は、オスマン帝国の近代化改革にともなって、アルメニア・グレゴリウス派教会にとっては教会に関するあらゆる制限が軽減されていく時代であった。しかし前述のように、ほかの教派の分派を生み出した時代でもあった。分派した1つであるアルメニア・カトリックは、1830年から31年にかけて共同体から独立を果たしていき、現在イスタンブルにおいては12の教会が現存している。

ヨーロッパ列強諸国は、オスマン帝国が19世紀国家的に弱体化する中で、イスタンブルにある各国の大使館を通して政府に干渉したり、近代化への圧力をかけたりしていた。そのような状況を受け、スルタン・マフムトⅡ世は1830年1月6日に、アルメニア・カトリックが自身の民族的、宗教的共同体を持つこと、そしてアルメニア・カトリックに対して、4つの権利を承認することを宣言した勅令を發布した。勅令の4つの権利とは、1つ目に総主教の職務を首都イスタンブルに設立すること、2つ目に亡命していた人々がオスマン帝国に帰還することが許可され、彼らの権利や財産が持ち主にそれぞれ返されたこと、3つ目にアルメニア・カトリックが自身の教会を建設する許可が出されたこと、そして4つ目にオスマン帝国におけるほかのキリスト教徒に対する権利が、アルメニア・カトリックに対しても適用されることである。1830年2月15、27日にアルメニア・カトリックの最初の集会において、帝国造幣局の監督者であったドゥズオール・アゴップ・チェレビーが代表者議会の長に選出された。

オスマン政府が、アルメニア・カトリックに対して独立した共同体を持つことを正式に承認した後、アルメニア・グレゴリウス派共同体とアルメニア・カトリック共同体の対立は終わることはなかった。それに対し政府は、イスタンブルにおけるアルメニア・グレゴリウス派とカトリックとの対立を解消させるために、1835年7月27日、8月24日付の勅令を發布した。その内容は、アルメニア・グレゴリウス派の人々がカトリックに改宗することを禁止するというものであった。

また、1830年に設立されたアルメニア・カトリック教徒の代表者議会は、1849年に25名から成る立法議会を設立した。その議会の議長には、アルメニア・カトリック総主教が任命された。この議会は、アルメニア・カトリック共同体に対する法律を制定し、スルタンに提出した。この法律は、1849年12月23日にスルタン・アブドゥルメジドによる勅令により承認された。

そして、アルメニア・カトリックと同じくアルメニア・プロテスタントも19世紀に独立を果たした教派の1つである。イスタンブルにおけるアルメニア・プロテスタントの教会5つのうち、アイナルチェシュメ、ゲディクパシャ、フィンジャンジュラルにある3つの教会は、今日も礼拝のために使用されている。しかし、ハスキョイとウスキュダルにあ

⁶本章は、Pars Tuğraçlı (1991), pp.286~288, pp.315~316. による。

った2つの教会はすでに存在しない。

1846年6月、アルメニア・プロテスタント40名はイスタンブルのアイナルチェシユメに初めてプロテスタントの福音伝道者教会を設立した。そして、スルタン・アブドゥルメジドによって発布された1850年11月16、26日付の勅令において、アルメニア・プロテスタントが自身の独立した宗教共同体を持つ、という権利が承認された。

プロテスタントの伝道者は、教育面や出版に関してアルメニア人全体に大きく影響を与えた。彼らは、聖書を現代アルメニア語に翻訳すること、プロテスタントの讚美歌をアルメニア語に翻訳すること、大人の間における識字率を向上させるために、教育のための本を出版することなどを行った。また、彼らが設立した学校には、イスタンブルのロバート・カレッジ（現ボアジチ大学）、メルズィフオンのアナトリア・カレッジ、シヴァスやタルススの高等学校などが存在する。

以上のように、オスマン帝国がヨーロッパ列強諸国の圧力、要求により、近代化の改革を推し進めていき、制度的に変化していった19世紀において、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントはともに独立した共同体を持つことを、政府から許可された。これにともない、共同体自ら教会を建設していったであろうということが推測される。また、近代化改革の流れにより、オスマン政府は法令という形式で共同体の権利を拡大し、共同体の活動の活発化を促進したと考えられる。さらに、カトリック、プロテスタント両共同体内部においても、議会などの構造的、制度的な整備がなされ、出版物などの媒体を通して、教育的な側面からの宣教活動も行われるようになっていった。このように、共同体の活動は活発化していくようになる。そして、この活動の活発化は共同体の中心的役割を果たす教会組織に、さらには教会の建築物そのものに反映されていくこととなる。それらは、教会の新たな建設、再建、修復などを通して明確に示されていった。

第3章：イスタンブルに建設された現存するアルメニア教会

それでは、19世紀のイスタンブルにおいて、どのような教会が活動していたのであろうか。第3章では、イスタンブルの55の教会のうち、現存する33のアルメニア・グレゴリウス派の教会を具体的に紹介し、続いて現存するアルメニア・カトリックの12の教会、アルメニア・プロテスタントの3つの教会を紹介する。

1. アルメニアン・グレゴリウス派（アルメニア正教）教会

1、聖アストヴァドザドズィン大聖堂（クムカプ）

クムカプで3番に古い聖アストヴァドザドズィン教会には、1641年から大聖堂が存在する。1819年12月1日、エディルネ出身のボース総主教のとき大聖堂の再建が始まり、1820年2月19日に再び開始された。また、1828年2月2日付の再建に関する勅令が、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジヤン）⁷の求めに応じ、マフムトII世により出された。新しい教会の計画は、帝国建築家のクリコル・アミラ・バルヤン⁸とM. デブレト・ガラベトによって行われた。礼拝は、1828年10月14日に開始された。その後1845年に部分的に、1874年、1884年、1894年に修復が行われた。

2、聖アストヴァドザドズィン教会（オルタキョイ）

オルタキョイにある聖アストヴァドザドズィン教会は、1665年に建設されたと言われている。その後、石造の教会が建設され、1824年12月15日に礼拝に使用され始めた。また1835年には再建、1843年には修復がなされている。

3、聖アストヴァドザドズィン教会（ベシクタシュ）

18世紀には、ベシクタシュにある今の聖アストヴァドザドズィン教会がある場所に、木造のチャペルが存在したということが知られている。1838年に石造の教会が、帝国建築家のガラベト・バルヤンによって建設された。また同じく帝国建築家のサルキス・ベイ（バルヤン）⁹は、若くして亡くなった彼の妻であるマクルヒを記念して、この教会の隣に学校を建設した。

⁷ 1771~1834. クリコル・アミラ・バルヤンらと同時期に活動した、ベズジヤン家の1人。Vağarşag Seropyan, "Bezciyan, Artin", 1994. *İstanbul Ansiklopedisi*, Cilt2. Ana Basım AŞ. p.223.

⁸ 1774~1831. オスマン帝国の宮廷建築家。セリムIII世の勅令により宮廷建築家に任命された。Pars Tuğracı, 1990, *The Role of The Balian Family in Ottoman Achitecture*. Yeni Çığır Bookstore. p.5.

⁹ 1831~1899. 1866年にオスマン帝国の宮廷建築家に任命された。Pars Tuğracı (1990), p.429.

4、聖アストヴァドザドズィン教会（イエニキョイ）

イエニキョイにある聖アストヴァドザドズィン教会は、元々1760年に建設された。19世紀前半にアミラ層の出資により、大規模な修復が行われ、1834年6月24日ウステパノスⅢ世総主教のとき再び使用され始めた。

5、聖アストヴァドザドズィン教会（エユップ）

エユップにある聖アストヴァドザドズィン教会の最初の記録は、1785年である。その後1812年に、クルクチェシメの墓を建設するために雇われていたアルメニア人の石工のために、木造で再建された。この木造の建物が荒廃していくと、オハネス・ベイ・ダディヤンによる出資で、1840年、1845年、1846年に修復がなされた。最終的にこの教会は、1855年に石造で再建された。

6、聖アストヴァドザドズィン教会（バクルキョイ）

ゼイティンブルヌにある、火薬工場や鉄工所で働くアルメニア人の要求により、政府の火薬工場長であるオハネス・ダディヤン¹⁰は、1831年に以前木造の男子修道院があった場所に、聖サルキスという名前の教会を建設した。この土地はギリシャ人から得たものであり、後に現在の石造の聖アストヴァドザドズィン教会が建設された。この教会は1844年4月7日に開かれ、1847年7月15日から25日付の勅令により、教会の屋根と壁面の修復がなされた。

7、聖ガラベド教会（バーラルバシュ・ウスキュダル）

1617年にヴァンのザカリア・ヴァルタベドはバーラルバシュ、イエニマハツレに、1590年から木造の教会が存在したということが知られている場所に、新しい教会を建設させた。1838年、アストヴァドザドゥル総主教のとき教会が再建された。1844年には修復がなされたが、3年後の1847年に焼失してしまった。ハルチュン総主教のとき、マテオス、アピック・ウンジュヤン兄弟が石造での教会の再建に対して出資し、1888年8月2日に教会が開かれた。

8、聖十字架教会（ウスキュダル、セリミエ）

ウスキュダルにある聖十字架教会は、1697年に最初に建てられた。1727年、ホヴハネス・ゴロド総主教のときに教会の再建、噴水の建設が行われた。その後も、18世紀後半のうちに、計5回教会の修復が行われた。そして、ガラベド総主教のとき、教会は石造で大規模に再建され、1830年9月27日に再び使用され始めた。この再建にかか

¹⁰ 1798~1869. アルメニア人金融家、ダディヤン家の1人。1823年に火薬工場長に、1826年に製粉工場長に任命された。Pars Tuğracı, 1993, *Dadyan Ailesi'nin Osmanlı Toplum, Ekonomi ve Siyaset Hayatındaki Rölü*. İstanbul, p.9.

る費用に寄与した人物は、クリコル・アミラ・バルヤン、カザズ・アルティン、ミカエル・アミラ・ピシュミシュヤンというアミラ層の人物たちであった。

9、聖十字架教会（クルチェシュメ）

クルチェシュメにある聖十字架教会は、17世紀にエレミヤ・チェレビー・キョミュルジヤンが書いた『イスタンブルの歴史』の中で、聖ニシャンとして言及されている¹¹。1798年、当時のザカリア総主教が再建費用を出資し、再建が行われた。ウステパノス・アーヴニ総主教のとき帝国建築家のガラベト・バルヤン¹²によって大規模に修復され1834年11月16日再び使用が開始された。この修復は、ハルチュン・アミラ・イェルガニヤンが修復費用の支援をした。

10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル）

サマティヤにある聖ハゴブ教会は、19世紀以前には存在していたと考えられている。その後1858年ハゴブ総主教のときに再建され、翌1859年6月13日に再び使用され始めた。1891年、再建を許可する勅令が出され、教会がこの再建費用を出資した。1892年再建が始まり、1899年12月28日、ホレン・アシキヤン総主教のときに使用が開始された。

11、聖ハルチュン教会（タクシム）

タクシムにある聖ハルチュン教会は、1738年に木造で初めて建設された。エサヤン女子高等学校の敷地内に位置している。1846年に修復され19世紀後半にはエサヤン兄弟によって石造で再建された。またマテオス・イズミリヤン総主教のとき、1895年に新しい教会に再建され、同年に再び使用され始めた。

12、聖ハルチュン教会（クムカプの外）

1661年までにイェニカプからクムカプまで港に沿ってアルメニア共同体が形成されていった。彼らは漁業や海運で生計を立てていたが、その地域における教会の必要性を満たすために、1832年に木造のチャペルが建設された。同年、カザズ・アルティンによりチャペルは教会に拡大され、また貧しい漁師の子供たちのために学校が建設された。カザズ・アルティンの死により、アルメニア人の職人たちは5万の銀貨を集め、それらは1

¹¹ Eremya Çelebi Kömürçüyan, *İstanbul Tarihi*. Tercüme ve tahşiye eden: Hrand D. Andresyan, 1952, İstanbul.の中で、

「1つのアルメニア教会と、多くのアルメニア人、アイ・ディミトリ教会とともに、ギリシヤ人がいる。」と言及されているが、聖ニシャン (Surp Nişan) という言葉では書かれていない。p.41.

¹² 1800~1866. クリコル・アミラ・バルヤンの息子。マフムドII世にオスマン帝国の宮廷建築家に任命された。ドルマバフチェ宮殿の建築に携わった。Pars Tuğracı (1990), p.87.

855年1月18日の発布された勅令のもと、教会の再建に使用された。カザズ・アルティンは1820年に女子のための私立科学学校を設立し、そこでは手芸を学ぶことができた。またボースヤン・ヴァーヴァリヤン小学校も教会に隣接されたが、今日児童不足で閉鎖されている。

13、聖ホヴハネス教会（ナルルカプ）

ナルルカプにある聖ホヴハネス教会は、元々1749～1751年に建設された教会である。1807年、クリコルⅢ世総主教のときに、ガラベド・アミラ・アズナヴリヤン、ハッジ・オハネス・アーたちの財政支援により、一部は石造で、一部は木造で病院の跡地に教会が再建された。1835年には修復がなされている。

14、聖ホヴハネス教会（ゲディクパシヤ）

ゲディクパシヤにある聖ホヴハネス教会は、1827年12月6日にウステパノス・ザカリアンⅢ世総主教のときに開設された。1849年12月18日に焼失し、1871年6月13日に、スルタン・アブドゥルアジズによって再建の許可が出された。新しい教会は1876年6月27日にネルセス・ヴァルジャベディヤン総主教によって開かれた。マテオス・イズミリヤン総主教のときに大規模に修復され、1895年3月に再び使用され始めた。

15、大天使教会（バラト）

バラトにある大天使教会は、イスタンブルにおいて最も有名なアルメニア教会である。この教会は元々16世紀に、聖ユーストラティオスとして知られているギリシャ正教会であり、1627年にアルメニア人に委譲された。エルサレムのアルメニア人総主教であるクリコル・バロンデルは自身の自伝の中で、その教会は1631年にアルメニア人に与えられ、同年9月8日にブルサのウステパノス総主教によって献堂されたと記録している。18世紀後半に複数回焼失し修復が行われ、1835年にはマフムトⅡ世による勅令をもとに5回目の再建が行われた。火災の防止として石造で建設され、同年9月8日ウステパノス・アーヴニ総主教によって再び使用され始めた。

16、聖フリプシムヤンツ教会（ブユクデレ）

ブユクデレにある聖フリプシムヤンツ教会は、クリコル、ガラベト・カラケフヤ兄弟によって建設され、1848年6月15日に礼拝に使用され始めた。1886年に石造で再建され、1893年に帝国評議会は総主教に対し、屋根、天井、柱の再建を許可した。この再建には、1万5千銀貨の資金がかかった。壁や司祭室、ドームは2年後の1895年に地震で被害を受けたが、後にアブラハム・パシヤ・イエラミヤンによる寄付で修復された。

17、聖ウステパノス教会（イエシルキョイ）

イエシルキョイにある聖ウステパノス教会は、1826年に政府の火薬工場長であるシモン・アミラ・ダディヤン¹³により建設された。後に1843年同工場長のボース・ダディヤン¹⁴により再建され、アストヴァドザドゥル総主教のとき1846年6月13日に礼拝に使用され始めた。また、この教会はイエシルキョイ・アルメニアン小学校に隣接している。

18、聖ケヴォルク教会（サマティヤ）

サマティヤにある聖ケヴォルク教会は、元々1031年ロマノス・アルキリオスⅢ世により建設された。イスタンブルにおいて2番目に古い教会である。エディス・オイホン、ベンテ・エティンギュの『イスタンブルの教会』¹⁵には、1804年に再建されたと記述されている。

19、聖クリコル啓蒙家教会（ガラタ）

ガラタにある聖クリコル啓蒙家教会は、イスタンブルで最も古い教会であり、1360年に建設されたとされている。1731年のガラタにおける大火災において、教会は完全に崩壊し、マフムトⅠ世からホヴハネス・ゴロド総主教に出された勅令を基礎として、カイセリのサルキス・カルファによって再建された。そして1733年3月10日に再び使用され始めた。教会の建設費用は、エインのバジールガンバシュ、マフデシ・セーポス・アミラ、英国大使館の通訳官、ゴロト総主教が出資した。また、1834年ウステパノス総主教のとき、1836年エルサレムのエッサイ総主教のとき、1888年ハルチュン・ヴェハベディヤン総主教のときに修復がなされている。この教会は、1886年に建設されたゲドロナガン・アルメニアン高等学校が隣接しており、現在も生徒が在籍している。

20、聖クリコル啓蒙家教会（クズグンジュク）

クズグンジュクにある聖クリコル啓蒙家教会は、ウステパノス総主教のとき帝国建築家であるオハネス・アミラ・セルヴェリヤン¹⁶によって建設され、1835年5月11日に開かれた。1861年に再建されているが、その再建費用はベドロス・アー・シャルジヤンが出資した。イスタンブルにおけるアルメニア教会のほとんどが、オスマン帝国時代に建設され、建設や修復に厳しい規制が強いられていたため、教会の美的装飾は十分でなかつ

¹³ 1777~1834. アルメニア人金融家、ダディヤン家の1人。1812年に火薬工場長に就任した。Pars Tuğraç (1993), p.5.

¹⁴ 1800/01~1863. シモン・アミラ・ダディヤンの息子。シモン・アミラの死後、1832年に火薬工場長に就任した。Pars Tuğraç (1993), p.31.

¹⁵ Edith Oyhon & Bente Etingü, 1997, *Churches in Istanbul*. Yapı Kredi Kültür Sanat Yayıncılık Ticaret ve Sanayi A.Ş., p.102.

¹⁶ ガラベド・アミラ・バルヤンの義理の兄弟。ガラベドと共に活動を行った。Pars Tuğraç (1993), pp.273.

た。しかしながら、この聖クリコル啓蒙家教会は例外である。十字架の図、ビザンツのドームやレリーフで装飾されていた。

2 1、聖クリコル啓蒙家教会（クナルアダ）

クナルアダ島に住んでいたアルメニア人は、教会を所有していなかったため、洗礼を受けるために、また宗教的礼拝を行うためにイスタンブルから司祭を連れてくるのが義務付けられていた。移動が深刻な問題となっていたため、共同体は政府に対し、島に教会を建設することを申請した。スルタン・アブドゥルメジドは1854年に勅令を出し、1855年7月8日新しい教会の基礎が整えられた。1857年9月22日にハゴブ総主教によって教会が開かれた。

2 2、聖ニゴガヨス教会（トプカプ）

カラギュムルックにあった聖ニゴガヨス教会が失われた後、同じ地区に新しい教会を建設することができなかったため、アルメニア人はトプカプのギリシャ人地区にあるギリシャ聖ニゴガヨス教会の近くに、1627年から1630年にかけて同じ名前で木造の新しい教会を建設した。1811年の勅令によると、ホヴハネス・チャマシュルジヤン総主教は、教会に対するあらゆる干渉を除外してほしいという要求をスルタンに請願した。スルタンに代わり、シェイヒルイスラームのフセイン・エフェンディは、あらゆる干渉を禁じ、この命令はファトワを用いて施行された。1831年、ウステパノス総主教はバイエジッドアーにある教会が修復される必要があるということをマフムトⅡ世に申請した。建設は1832年6月4日に完了し、同年8月21日に礼拝に使用され始めた。建設作業における費用が不十分であることが判明したとき、その地区のアルメニア人は、彼らと良好な関係にあるアフメト・パシヤ・モスクのイマームであるハッジ・カーイム・エフェンディのところへ行き、彼はクルクジュバシュ、ファトマスルタン、バイエジッドアーのモスクやムスリムの職人たちから募金を集め、8500銀貨をアルメニア人に与えたと伝えられている。また、その教会は1894年の大地震で被害を受け、同年に修復がなされた。

2 3、聖ニゴガヨス教会（ベイコズ）

ベイコズにある聖ニゴガヨス教会は、1776年に最初に建設された。ウステパノス・アーヴニ総主教のときに修復がなされ、1834年9月16日に再び使用され始めた。

2 4、聖ニシャン教会（カルタル）

現在の教会は、19世紀初頭、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジヤン）によって建設された。そして1856年の勅令を基礎としてハゴブ総主教のとき、ノラドゥンキヤン兄弟によって再建され、1857年9月1日に礼拝に使用され始めた。

2 5、聖救い主教会（クズルチェシュメ）

クズルチェシュメにある聖救い主教会は、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジヤン）によって1832年に、聖救い主病院の敷地内に建設された。この教会は、元々帝国建築家であるガラベト・バルヤンによって木造で建設された。建設が完了した後、ウステパノス・アーヴニ総主教のとき1834年5月3日に開始された。後に教会が荒廃していくと、1898年アカタン、ガラベト・タハタブルンヤン兄弟により、彼らの兄弟で若くして亡くなったティオキネを記念して、この教会を再建させた。

26、聖サントウクフト教会（ルメリヒサル）

ルメリヒサルにある聖サントウクフト教会は、18世紀の終わりに建設された。教会は荒廃していたが、1816年に修復が試みられた。しかし、この修復に関する許可を政府から得ることができていなかったため、修復は取り止めになり、1819年には裁判所が再建の禁止を命じた。1856年に、ハゴポス総主教のときアミラ層の遺産で、ハゴプ・ムバハジュヤンによって再建され、同年7月29日に使用され始めた。

27、聖タカヴォール教会（カドゥキョイ）

カドゥキョイにある聖タカヴォール教会は、17世紀の終わりには存在していたと考えられているが、最初の記録は1722年である。アブラハム総主教のとき、ハルチュン・アミラ・ノラドゥンキヤンが再建のために出資し、1814年7月4日に礼拝に使用され始めた。ヤコブ総主教のとき石造で再建され、その費用はエルズルムのハッジ・ガラベド・アー・ムラドヤンによって出資された。そして1858年9月30日に再び使用され始めた。

28、タテオス・パルトオメオス使徒教会（イエニカプ）

イエニカプにあるタテオス・パルトオメオス使徒教会は、1846年4月6日、マテオスⅡ世総主教によって石造の基礎が作られ、1848年6月18日に開かれた。

29、聖ヴァルタン教会（フェリキョイ）

フェリキョイにある聖ヴァルタン教会は、1860年から1861年の間、サルキス・クユムジヤン総主教のときに木造で建設され、1866年5月30日に礼拝に使用され始めた。

30、聖イェーヤ教会（エユップ・デフテルダル）

エユップにある聖イェーヤ教会は、18世紀に建設されたという記録が存在し、17766年には閉鎖され、1800年3月26日付の勅令のもと、再び開かれた。ウステパノス総主教のとき、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジヤン）によって再建され、1832年6月30日に再び使用され始めた。

3 1、十二使徒教会（カンディヱリ）

カンディヱリにある十二使徒教会は、ウステパノス総主教のとき1846年9月22日に開かれた。1892年、アルメニア総主教がこの教会の修復を帝国議会に要求し、ゾバジ・パルセフ・アー（ガザロシヤン）の強い勧めにより行われた。このとき、教会の拡大も同時に行われた。

3 2、聖イェリツ・マンガツ教会（ボヤジュキョイ）

ボヤジュキョイにある聖イェリツ・マンガツ教会は、元々1840年にミサク・アミラによって木造で建設された。この教会は1884年に石造で再建され、1885年9月8日再び使用され始めた。

3 3、聖三位教会（ガラタサライ/ベイオール）

ガラタサライにある聖三位教会は、16世紀初頭には存在していたと記録されている。1805年、ハッジ・クリコル・アミラ・ケヴオルキヤン（チャラズリヤン）が、木造の教会を建設させた6000平方メートルの土地を購入したということが知られている。この教会が礼拝に使用することを政府は許可し、1807年6月9日に開かれた。しかし、1810年4月10日に焼失してしまった。この教会の再建許可はムスロス・エルガニヤンによって拒否され、その後アルメニア人総主教のウステパノス総主教は、新たな要求を行い、帝国建築家、地域のワクフ管理人、その地区に住む著名なアルメニア人やムスリムが参加する中で、調査が行われた。その後教会は、元々のデザインと同じように再建された。再建には、アミラ・シモニヤン、ミカエル・アミラ・ピシュミシュヤン、ハルチュン・アミラ・エルガニヤン、ピンガンのオハネス・アミラ、そして他の著名なアルメニア人の財政支援があった。その建設に携わった建築家は、ガラベド・バルヤン、オハネス・セルヴェリヤン、ミナス・アーであった。新しい教会の建設には、2年の期間がかかり、ウステパノス総主教によって1838年6月18日教会が使用され始めた。教会の一部分は1845年に修復された。

2. アルメニア・カトリック教会

1、アナラド・フーチュン教会（サマティヤ）

サマティヤにあるアナラド・フーチュン教会は、元々1839年に建設された。1856年9月、アンドン・ハスン司教によって新しい教会の基礎が敷かれ、1857年11月25日に礼拝に使用され始めた。

2、アナラド・フーチュン教会（パンガルトゥ）

パンガルトゥにあるアナラド・フーチュン教会は、ムフタル派の司教の1人により木造で建設された。建設には3年の期間がかかり、1866年11月24日に教会が開かれた。

3、聖アンドン教会（タラブヤ）

タラブヤにある聖アンドン教会は、1871年に建築家のM. ラージによって建設された。この建設にあたり、アルメニア・カトリック共同体メンバーのアンドン・トゥングル・ヤヴェル・パシヤが財政支援を行った。

4、聖アストヴァドザドズィン教会（サクズアーチ-ベイオール）

聖アストヴァドザドズィン教会は、1864年11月3日付のスルタン・アブドゥルアジズの勅令をもとに、1865年に教会の基礎が敷かれた。この教会のある土地は、1838年にボース・ビレジックチによって総主教に与えられたものである。1866年11月6日、アンドン・ハスン総主教のとき礼拝に使用され始めた。また、この教会の建設は建築家のアンドン・トゥルベンチヤンが行った。エディス・オイホン、ベンテ・エティンギュの『イスタンブルの教会』では、1889年に再建されたと記述されている¹⁷。

5、聖アストヴァドザドズィン教会（ブユクアダ）

ブユクアダにある聖アストヴァドザドズィン教会は、アルメニア・カトリック共同体の裕福なメンバーであるアンドン・アペリアンによって建設された。建設を許可する勅令が1856年に受け取られ、1858年に建設が完了した。

6、聖ボース教会（ブユクデレ）

聖ボース教会が立つ土地は、1838年ボース・アミラ・ビレジッキジャンによって購入された。ブユクデレにおけるアルメニア人の人口が増加すると、石造での再建許可が求められるようになり、新しい建物は1885年9月29日アザリアン総主教のときに開かれた。

7、聖ホヴハネス・ムグルディッチ教会（イエニキョイ）

イエニキョイにある聖ホヴハネス・ムグルディッチ教会は、1864年4月2日のスルタン・アブドゥルアジズによる勅令で建設許可を獲得した。この教会の建設は、1866年6月24日に完了し、その建設費用はすべてホヴハネス・トゥングルヤンによって出資された。

8、聖ホヴハネス・クリソストーマ教会（タクシム）

¹⁷ Edith Oyhon&Bente Etingü,1997, *Churches in Istanbul*. Yapı Kredi Kültür Sanat Yayıncılık Ticaret ve Sanayi A.Ş, p.66.

タクシムにある聖ホヴハネス・クリソストマ教会は、1837年木造で建設された。教会の建物が荒廃し焼失したため、建築家のガラベト、アンドン・トゥルベントチヤン兄弟によって、現在の教会が建設された。この建設は1860年4月7日に建物の基礎が敷かれ、3年の建設期間を経て1863年に礼拝のために教会が使用され始めた。建設費用のほとんどは、アゴプ・キョチェオールによって出資された。

9、聖クリコル啓蒙家教会（オルタキョイ）

オルタキョイにある聖クリコル啓蒙家教会は、アブラハム・アミラ・アッラヴェルディヤンや、ほかの裕福なアルメニア共同体のメンバーによる寄付によって建設された。元々木造のチャペルが存在していたところに、石造の教会を建設し、1839年1月6日ボース・マルシヤン大司教によって教会が開かれた。後に、修復がなされ1857年1月19日に再び使用され始めた。

10、聖ヒスス救い主教会（ガラタ）

ガラタにある聖ヒスス救い主教会は、1832年5月12日付のマフムトⅡ世による勅令によって、建設許可が出された。アンドン・ヌリジヤン大司教とアゴボス・チュクリヤン牧師によって建物の基礎が敷かれ、1834年1月13日に礼拝に使用され始めた。カトリック共同体による寄付により、石造で建設された。

11、聖レヴォン教会（カドゥキョイ）

聖レヴォン教会は、イスタンブルのアジア側に位置する唯一のアルメニア・カトリックの教会である。この教会は、1905年5月14日付の帝国の勅令によって、元々木造のチャペルがあった場所に、1911年に建設された。

12、聖三位教会（ベイオール）

ベイオールにある聖三位教会は、1699年ローマ・カトリック共同体によって建設された。しかし、1762年9月20日に焼失し、1770年に石造で再建された。1802年から1854年にはイスタンブル総主教の住居として使用された。また、一時期にはオーストリア大使館によって、礼拝に使用された。この教会が、いつアルメニア・カトリック教会として使用されるようになったのかは、知られていない。

3. アルメニア・プロテスタント教会

1、聖三位伝道者教会（ベイオール/アイナルチェシュメ）

聖三位伝道者教会は、1846年ペラ（現在のベイオール）のアイナルチェシュメ地区に、元々木造で建設された。後にこの教会が焼失すると、1861年3月20日プロテス

タント共同体は、新しい教会と学校を建設する目的で、土地を買うための許可が与えられた。

2、エマニュエル教会（フィンジャンジュラル/エミノニュ）

エマニュエル教会はフィンジャンジュラルの丘に、アルメニア布教団に所属するバイブル・ハウスの中に存在する。1908年に建設され、現在も礼拝のために使われている。

3、ゲディクパシャ・プロテスタント教会（ゲディクパシャ/ランガ）

ゲディクパシャ・プロテスタント教会は、以前木造のチャペルがあった場所に、1830年11月1日に教会の基礎が築かれた。ヴァハラム・トルコミヤン博士によると、1864年にゲディクパシャの巨大なアルメニア共同体が教会を作らせた。1880年に、現在の教会がある土地が2200リラで購入され、共同体はこの土地に教会を建設する許可を申請した。しかし、この申請は却下された。1895年8月21日に、理事会は後に許可が与えられることを望み、この場所に木造のチャペルを建設した。しかし、申請が再び却下されると建物は放棄された。メフメドV世の治世に、1911年5月18日付の勅令によってついに建設の許可が与えられた。1889年にイスタンブルを訪問したウィリアム・ジェームズ¹⁸は、教会の建設に5000ドルを寄付した。

¹⁸ この人物は 『土英辞書』の著者、ウィリアム・ジェームス・レッドハウスとみられる（1811~1892）。レッドハウスの作った辞書は、米国宣教委員会の代表である A.H.ボヤジャンによって、1890年に出版された。Carter Vaughn Findley, “J.W. Redhouse”, 1994. *Istanbul Ansiklopedisi*, Cilt2. İstanbul. p.523.

以下に、第3章で紹介したアルメニア・グレゴリウス派、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタント各教会の建設、再建、修復、教会開始年などを年代順、特に19世紀を中心にまとめた。無表記の番号は、アルメニア・グレゴリウス派、ア・カはアルメニア・カトリック、ア・プはアルメニア・プロテスタントをそれぞれ指す。

- 1727 8、聖十字架教会（ウスキュダル） 再建
- 1730 15、大天使教会（バラト）再建
- 1738 11、聖ハルチュン教会（タクシム） 建設
- 1749～51 13、聖ホヴハネス教会（ナルリカプ） 建設
- 1760 4、聖アスドヴァドザドズイン教会（イエニキョイ）建設
- 1770 ア・カ12、聖三位教会（ベイオール） 再建 石造
- 1776 23、聖ニゴガヨス教会（ベイコズ） 建設
- 1798 9、聖十字架教会（クルチェシュメ） 建設
- 1800 30、聖イェーヤ教会（エユップ、デフテルダル） 再開
- 1804 18、聖ケヴォルク教会（サマティヤ） 再建
- 1807 13、聖ホヴハネス教会（ナルリカプ） 建設、一部再建
- 1810 33、聖三位教会（ガラタサライ、ベイオール）再建
- 1812 5、聖アスドヴァドザドズイン教会（エユップ）再建 木造
- 1814 27、聖タカヴォール教会（カドウキョイ） 再開
- 1816 26、聖サントウクフト教会（ルメリヒサル） 修復
- 1819 1、聖アスドヴァドザドズイン大聖堂（クムカプ） 再建開始
- 1820 1、聖アスドヴァドザドズイン大聖堂（クムカプ）再開
- 1824 2、聖アスドヴァドザドズイン教会（オルタキョイ）開始
- 1826 17、聖ウステパノス教会（イエシルキョイ） 建設
- 1827 12、聖ハルチュン教会（クムカプ 外） 建設
- 1827 14、聖ホヴハネス教会（ゲディクパシヤ） 開始
- 1828 1、聖アスドヴァドザドズイン大聖堂（クムカプ）再建の法令、再開
- 1830 8、聖十字架教会（ウスキュダル、セラミイエ）
- 1831 30、聖イェーヤ教会（エユップ、デフテルダル）再建
- 1832 12、聖ハルチュン教会（クムカプ 外） チャペル建設
- 1832 22、聖ニゴガヨス教会（トプカプ） 開始
- 1832 25、聖救い主教会（クズルチェシュメ） 建設
- 1832 30、聖イェーヤ教会（エユップ、デフテルダル） 再開
- 1832 ア・カ10、聖ヒスス救い主教会（ガラタ） 建設許可
- 1834 4、アスドヴァドザドズイン教会（イエニキョイ） 再開
- 1834 9、聖十字架教会（クルチェシュメ） 再建

- 1 2、聖ハルチュン教会 (クムカプ) 建設
 1 3、聖ホヴハネス教会 (ナルリカプ) 再建
 1 9、聖クリコル啓蒙家教会 (ガラタ) 修復
 2 3、聖ニゴガヨス教会 (ベイコズ) 再開
 2 5、聖救い主教会 (クズルチェシュメ) 開始
 ア・カ10、聖ヒスス救い主教会 (ガラタ) 開始
- 1 8 3 5 2、聖アスドヴァドザドズイン教会 (オルタキョイ) 再建
 1 3、聖ホヴハネス教会 (ナルリカプ) 修復
 1 5、大天使教会 (バラト) 5回目の再建、再開
 2 0、聖クリコル啓蒙家教会 (クズグンジュク) 開始
- 1 8 3 6 1 9、聖クリコル啓蒙家教会 (ガラタ) 修復
- 1 8 3 7 ア・カ8、聖ホヴハネス・クリソストーマ教会 (タクシム) 建設 木造
- 1 8 3 8 7、聖ガラベト教会 (バーラルバシユ-ウスキュダル) 再建
 3 3、聖三位教会 (ガラタサライ、ベイオール) 開始
- 1 8 3 9 3、聖アスドヴァドザドズイン教会 (ベシクタシュ) 建設 石造
 1 0、聖ハゴブ教会 (サマトヤ・アルトゥメルメル) 修復
 ア・カ1、アナラド・フーチュン教会 (サマトヤ) 建設 木造
 ア・カ9、聖クリコル啓蒙家教会 (オルタキョイ) 開始
- 1 8 4 0 5、聖アスドヴァドザドズイン教会 (エユップ) 修復
 3 2、聖イエリツ・マンガンツ教会 (ボヤジュキョイ) 建設 木造
- 1 8 4 3 2、聖アスドヴァドザドズイン教会 (オルタキョイ) 修復
 1 7、聖ウステパノス教会 (イエシルキョイ) 再建
- 1 8 4 4 6、聖アスドヴァドザドズイン教会 (バクルキョイ) 開始
 7、聖ガラベト教会 (バーラルバシユ-ウスキュダル)
- 1 8 4 5 1、聖アスドヴァドザドズイン大聖堂 (クムカプ) 部分的修復
 5、聖アスドヴァドザドズイン教会 (エユップ) 修復
- 1 8 4 6 5、聖アスドヴァドザドズイン教会 (エユップ) 修復
 1 1、聖ハルチュン教会 修復
 1 7、聖ウステパノス教会 (イエシルキョイ) 再開
 2 8、タテオス・パルトオネオス使徒教会 (イエニカプ) 石造の基礎
 3 1、十二使徒教会 (カンディッリ) 開始
 ア・プ1、聖三位福音伝道者教会 (ベイオール・アイナルチェシュメ) 建設
 木造
- 1 8 4 7 6、聖アスドヴァドザドズイン教会 (バクルキョイ) 修復
- 1 8 4 8 1 6、聖フリプシムヤンツ教会 (ブユクデレ) 建設
 2 8、タテオス・パルテオメオス使徒教会 (イエニカプ) 開始

- 1855 5、聖アスドヴァドザドズィン教会（エユップ）修復
12、聖ハルチュン教会（クムカブ 外） 再建
21、聖クリコル啓蒙家教会（クナルアダ）再建
- 1856 24、聖ニシャン教会（カルタル）再建
26、聖サントウクフト教会（ルメリヒサル） 再開
ア・カ5、聖アスドヴァドザドズィン教会（ブユクアダ）建設許可
- 1857 21、聖クリコル啓蒙家教会（クナルアダ） 開始
24、聖ニシャン教会（カルタル） 再開
ア・カ1、アナラド・フーチュン教会（サマトヤ） 再開
ア・カ9、聖クリコル啓蒙家教会（オルタキョイ） 再開
- 1858 10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル） 再建
27、聖タカヴォール教会（カドウキョイ） 再開
- 1859 10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル） 再開
- 1860～61 29、聖ヴァルダン教会（フェリキョイ） 建設 木造
- 1861 20、聖クリコル啓蒙家教会（クズグンジュク）再建
ア・プ1、聖三位福音伝道者教会（ベイオール・アイナルチェシュメ） 再
建許可
- 1863 ア・カ8、聖ホヴハネス・クリソストーマ教会（タクシム） 開始
- 1864 ア・カ4、聖アスドヴァドザドズィン教会（サクズアーチ・ベイオール） 勅
令で基礎
ア・カ7、聖ホヴハネス・ムグルディッチ教会（イエニキョイ） 建設許可
ア・プ3、ゲディクパシヤ・プロテスタント教会（ゲディクパシヤ/ランガ）
- 1866 29、聖ヴァルダン教会（フェリキョイ） 開始
ア・カ2、アナラド・フーチュン教会（パンガルトゥ） 開始
ア・カ4、聖アスドヴァドザドズィン教会（サクズアーチ・ベイオール） 開
始
ア・カ7、聖ホヴハネス・ムグルディッチ教会（イエニキョイ） 建設完了
- 1871 14、聖ホヴハネス教会（ゲディクパシヤ） 再建の法令
ア・カ3、聖アンドン教会（タラブヤ） 建設
- 1874 1、聖アスドヴァドザドズィン大聖堂（クムカブ）修復
- 1876 14、聖ホヴハネス教会（ゲディクパシヤ）再開
- 1884 1、聖アスドヴァドザドズィン大聖堂（クムカブ）修復
32、聖イエリツ・マンガンツ教会（ボヤジュキョイ） 再建 石造
- 1885 32、聖イエリツ・マンガンツ教会（ボヤジュキョイ） 再開
ア・カ6、聖ボース教会（ブユクデレ） 開始
- 1886 16、聖フリプシムヤンツ教会（ブユクデレ）再建

- 1888 7、聖ガラベド教会（バーラルバシユ-ウスキュダル）開始
19、聖クリコル啓蒙家教会（ガラタ）修復
- 1889 ア・カ4、聖アストヴァドザドズィン教会（サクズアーチ-ベイオール）再建
- 1890 33、聖三位教会（ガラタサライ/ベイオール）修復
- 1891 10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル） 再建の法令、学校の修復
- 1892 10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル） 再建の開始
31、十二使徒教会（カンディッリ）修復要求
- 1894 1、聖アストヴァドザドズィン大聖堂（クムカプ）修復
22、聖ニゴガヨス教会（トプカプ）修復
- 1895 11、聖ハルチュン教会（タクシム） 建設
- 1899 10、聖ハゴブ教会（サマティヤ・アルトゥメルメル） 開始
- 1901 ア・カ2、アナラド・フーチュン教会（パンガルトゥ） 修復
- 1903 29、聖ヴァルダン教会（フェリキョイ） 修復、再建
- 1905～07 ア・プ1、聖三位福音伝道者教会（ベイオール・アイナルチェシュメ）
再建 石造
- 1906 25、聖救い主教会（クズルチェシュメ）再開
- 1908 ア・プ2、エマニュエル教会（フィンジャンジュラル・エミノニュ） 建設
- 1911 ア・カ11、聖レヴオン教会（カドウキョイ） 建設 木造のチャペル

第4章：教会に関するデータの分析

前章では、イスタンブルにおいて現存する教会を、アルメニア・グレゴリウス派、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントに区分して、具体的に建設、再建、修復などの年月日を中心に紹介した。そして、本章ではそれらイスタンブルの教会のデータをもとに、19世紀のオスマン帝国における近代化改革の、教会への影響や、オスマン政府と総主教座、俗人有力者との関係を分析していく。

1. 教会が建設された土地

第2章では、イスタンブルにおいて教会を建設するにはどのような条件があるのか、またどのような手続きを行って再建、修復が可能となるのかを述べた。オスマン帝国においては、新しく教会を建設することは基本的には禁止されており、修復に関してさえオスマン政府の許可が必要であった。そして、再建や修復の対象とされる教会には、オスマン帝国の宮廷建築家や調査員が派遣され、教会の細部にわたる事前の調査が行われた。これらの事実を示す教会が存在する。バクルキョイにあるアルメニア・グレゴリウス派の教会、聖アスドヴァドザドズィン教会に関しては、1831年に以前は男子修道院が存在していた土地に、教会が建設された。しかも、その土地はギリシャ人により与えられた、とある。バーラルバシュにある聖ガラベド教会に関しては、1590年から木造の教会があったといわれている土地に、新しく教会を建設した。アルメニア・カトリックの聖レヴオン教会、アルメニア・プロテスタントのゲディクパシャ・プロテスタント教会においては、もともとチャペルがあった場所に新しく教会が建設されている。そして、トプカプにある聖ニゴガヨス教会に関しては、ギリシャ人地区にあるギリシャ聖ニゴガヨス教会の近くに、この教会の名前と同じ名前でアルメニア・グレゴリウス派の教会を新しく建設している。また、もともと教会が存在されていた土地にだけ教会の新設や再建が行われていたのではない。クズルチェシュメにある聖救い主教会に関しては、聖救い主病院の敷地内に建設された。これらの教会が示すように、イスラーム法上の規定により、征服地においてはまったく新しい土地に新規の教会を建設することはできなかったため、以前教会が存在していたという土地や、その可能性がある土地、さらにはアルメニア共同体に深く関係する土地において教会の建設がなされていたということである。

2. 教会に隣接する学校

第1章で述べたように、19世紀前半アルメニア共同体内においては不正による秩序の乱れが起きていた。そのことが原因となってアルメニア・カトリックに改宗するアルメニア人が増加し、そのことがアルメニア・グレゴリウス派にとって深刻な問題となっていた。この改宗問題の解決策として、教育の普及による秩序回復が考案され、総主教座はこの時期に新式の学校を設立していった。それとともに総主教座は、アルメニア共同体における

人々への全般的な教育の普及という側面からも、学校の設立に寄与している。

それらの学校は、教会に隣接しているものがいくつか存在する。タクシムにあるエサヤン女子高等学校は、敷地内に聖ハルチュン教会を有している。クムカプの外にある聖ハルチュン教会においては、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジヤン）が貧しい子どもたちのために、学校を設立したり、女子生徒のための私立科学学校を設立したり、ボースヤン・ヴァーヴァリヤン小学校が教会に隣接されたりした。また、イエシルキョイにある聖ウステパノス教会は、イエシルキョイ・アルメニア小学校に隣接している。そして、ガラタにある聖クリコル啓蒙家教会においては、ゲドロナガン・アルメニア高等学校が隣接している。

これらのように、19世紀に建設、再建、修復された教会に隣接する形で学校が設立され、また学校の敷地内に教会が存在するということから、教会、総主教座と学校教育が非常に密接な関係にあったことがうかがえる。そして、それらの学校では従来の宗教教育だけでなく、社会的な教科教育も行われていた。それは、19世紀の近代化改革にともない、教育の分野においても近代的要素が組み込まれ、その流れの中でアルメニア共同体、総主教座の活動が活発化していったと考えられる。

3. 教会が再建、修復された年代

第2章で述べたように、オスマン帝国で協会を建設、再建などする際、教会側にとっては多くの制限が強いられる状況であった。しかしながら、19世紀を中心としてヨーロッパ諸国が、非ムスリムへの平等が実現されるように要求をしていった。以上のような19世紀の状況において、イスタンブルのアルメニア・グレゴリウス派では、教会の再建、修復が数多く行われている。また19世紀半ばに独立していくアルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントそれぞれにおいても、再建や修復が活発に行われている。18世紀、また20世紀にも再建や修復が行われているが、19世紀は特にそれらの数が多い。その中でも、1830年代から1850年代は、最盛期とも言ってもよいほどに教会の建設、再建、修復、再開などが活発に行われた時期である。イスタンブルには、アルメニア・グレゴリウス派において33、アルメニア・カトリックにおいて12、アルメニア・プロテスタントにおいて3の教会で計48が現存し活動している。そのうち3つの教派を合わせて少なくとも45の教会は、19世紀に建設、再建、修復などいずれかが行われている。

このことは、19世紀前半におけるオスマン帝国内の民族独立、帝国の近代化方針を示したタンズィマート期の始まりである1839年の「ギュルハネ勅令」、非ムスリムの権利の拡大や処遇の改善などを詳細に示した、1856年の「改革勅令」の発布された時期とも重なる。勅令で非ムスリムの権利拡大が明確に示され、制限が弱まっていったことが、総主教座の活動を活発化させ、教会の再建や修復を促進していったと考えられる。

4. 俗人有力者の影響

19世紀、総主教座の活動が活発化していくなか、教会の建設、再建、修復に関しても数多く行われていた。それらに影響力を及ぼしていたのが、アルメニア人富裕層の俗人有力者である。彼らは主に教会の再建などに、財政面において数多く出資している。

その中でもとりわけアミラ層は、教会の建設、再建、修復などに対して、それらの財政的な側面において出資することで、総主教座内においても発言権を強めていった。アミラ層の1人である、カザズ・アルティン（ハルチュン・アミラ・ベズジャン）は、クムカプにある聖アスドヴァドザドズィン教会の再建を当時のスルタンであるマフムトⅡ世に要求している。ウスキュダルにある聖十字架教会においては、再建費用を出資し、クムカプの外にある聖ハルチュン教会、カルタルにある聖ニシャン教会、クズルチェシュメにある聖救い主教会、エユップにある聖イェーヤ教会においては、自らが建設や再建を行っている。これら6つの教会において影響力を及ぼしていることは、アミラ層の人物の中でも、記録がある限り最多であると思われる。

また、19世紀のオスマン帝国の建築の多くを手掛けていたのが、バルヤン家である。バルヤン家は、当時のスルタンに仕えて帝国の宮廷建築家として有名であり、多くのアルメニア教会の設計、建築に携わっていた。バルヤン家は教会の建設のみならず、ドルマバフチェ宮殿、チュラーン宮殿、ヌスレティエ・モスク、ドルマバフチェ・モスクなど、スルタンの生活の場である宮殿や、ムスリムの信仰の場であるモスクの建築も担っていた。バルヤン家が宮殿やモスク、さらには教会の建築的側面を担っていたということからも、富裕層であるバルヤン家がオスマン帝国で非常に大きな影響力を持っていたことを知ることができる。

カザズ・アルティンやバルヤン家以外のアミラ層における人物も、イェニキョイにある聖アスドヴァドザドズィン教会、クルチェシュメにある聖十字架教会、ナルルカプにある聖ホヴァネス教会、イェシルキョイにある聖ウステパノス教会、ガラタにある聖クリコル啓蒙家教会、クズグンジュクにある聖クリコル啓蒙家教会、ルメリヒサルにある聖サンクトゥクフト教会、カドゥキョイにある聖タカヴォール教会、ボヤジュキョイにある聖イェリツ・マンガツ教会、ガラタサライにある聖三位教会など、アルメニア・グレゴリウス派の教会においては、少なくとも16の教会に関して、建設、再建、修復、それらの費用の出資などの形でアミラ層が関わっている。アルメニア・カトリックの教会に関しては、ブユクデレにある聖ボース教会、オルタキョイにある聖クリコル啓蒙家教会において、アミラ層が土地の購入や建設費用の出資という形で関与している。また、アミラ層だけでなく他の俗人有力者も総主教座に関与しており、アルメニア・グレゴリウス派、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントそれぞれほとんどの教会で、俗人有力者が影響を及ぼしている。

19世紀前半以降、教会の運営などに加え、学校や病院の設立、運営なども総主教座が担っていくこととなり、職務の量が増加していき、財政面においてはアミラ層などの俗人有力者に依存していかなければならなかった状況が生まれた、ということを経第1章ですで

に述べた。本節では、具体的にどの教会において、アミラ層などの俗人有力者が影響力を及ぼし、関与していったかをみてきたが、これらの事実からも俗人有力者が関与した教会は1、2つではなく、数多くの教会に、特に財政的に支援していることがわかる。そのことは、総主教座にとっても非常に重要なことであり、俗人有力者が総主教座内において、発言権を強めていった大きな要因であったと考えられる。

以上本章では、教会が建設された土地、教会に学校が隣接していること、教会において再建、修復などが行われた年代、俗人有力者の影響という4つの観点でデータの分析を行った。もともとオスマン帝国においては、キリスト教徒は教会の新設、再建、修復などに関して、征服地にてまったくの新しい土地には建設することができないということなど、厳しい規制を強いられていた。しかしながら、19世紀の近代化改革のもと、非ムスリムの権利が拡大され、それらは規制がありながらも教会の建設、再建、修復などの回数が増加していることやそれらの年代から、改革の影響が明らかに総主教座の活動を活発化させ、教会に反映されていると考えられる。また、建設、再建、修復などを行うにあたって、俗人有力者の財政面における支援は欠かすことができなかつたと思われる。それは、再建、出資した教会の数をみても確認することができる。このことが、総主教座内において俗人有力者が大きな影響力を及ぼしていた背景となっていたことは、間違いないであろう。

第5章：結論

本論では、19世紀のオスマン帝国が近代化改革の過程において、帝国内の非ムスリムに対する処遇を改善していく中、オスマン政府がアルメニア共同体にはどのように対応していったのか、またアルメニア共同体と俗人との関係がどのような関係であったのかということ、教会の建設、再建、修復などの事実関係を中心に考察してきた。

第1章では、オスマン帝国が18世紀から19世紀にかけて求心力を低下させていく中で、ヨーロッパ諸国の干渉をますます受けるようになり、それにともない近代化への改革がなされていく過程を確認した。とりわけ、従来ムスリムが優越されていた立場が見直され、非ムスリムの権利の拡大、処遇の改善が、改革による勅令で明確に、かつ詳細に示されたことは、非常に重要なことであった。また、アルメニア人社会において総主教座は中心的な役割を果たしていき、宗教的な活動のみならず、学校や病院の設立など社会的な要素も担っていた。さらに19世紀は、改宗問題を背景とする総主教座内の改革も行われた時期であった。

第2章では、イスタンブルにおける教会の建設に関して、アルメニア共同体は厳しい規制を強いられていたことをみた。しかし、厳しい規制が存在しながらも、帝国の改革を背景として、19世紀半ば以降に教会の「建設・修復ラッシュ」を迎えることとなる。また、アルメニア・カトリックとアルメニア・プロテスタントに対して、オスマン政府が両共同体に独立を承認していく過程、両共同体内における制度的な整備、宣教活動などの側面から共同体の活動が活発化していったことを確認した。

第3章では、イスタンブルに現存する教会を、アルメニア・グレゴリウス派、アルメニア・カトリック、アルメニア・プロテスタントそれぞれ紹介した。建設、再建、修復などの事実とそれらが行われた年月日、人物をなど通して、各教会の歴史を詳細に明らかにした。

そして第4章では、それらの教会の事実関係の文脈を中心として、政府と近代化改革が教会にどのように影響を及ぼしていったのか、また総主教座と俗人有力者との関係をみてきた。19世紀には教会の建設、再建、修復などが数多くなされており、ヨーロッパ列強諸国の要求による帝国の改革の影響が見て取れる。さらに、俗人有力者が教会の活動に対して、特に財政面による支援を行うことで総主教座内でも大きな発言権を得ることができた。

このように、オスマン帝国は19世紀の近代化改革を背景として、アルメニア共同体への規制を緩和していった。これにより共同体の活動が活発化し、教会の再建なども活発に行われるようになった。つまり、オスマン政府の改革が、アルメニア共同体においても実際に反映されていったことを意味する。さらに、共同体が活動を活発化させていくことにともない、その運営に関して、特に財政面で俗人有力者の力に依存していったという構造も生まれた。その点に関して、総主教座にとって、アミラ層などの俗人有力者は非常に大

きな存在であったと言える。本論では、以上のことを論証してきたが、イスタンブルに現存しない教会に関して、また各教会がどのような建築様式であったのかということは、本論では扱うことができなかった。よって、それらを今後の課題として本論を結びたいと思う。

参考文献

Benjamin Braude and Bernard Lewis eds., 1982. *Christians and Jews in the Ottoman Empire*. vol.1. New York.

Carter Vaughn Findley, “J.W. Redhouse”, 1994. *İstanbul Ansiklopedisi Cilt2*. İstanbul.

Edith Oyhon and Bente Etingü ,1997. *Churches in Istanbul*. Yapı Kredi Kültür Sanat Yayıncılık Ticaret ve Sanayi A.Ş,

Eremya Çelebi Kömürciyan, *İstanbul Tarihi*. Tercüme ve tahşiye eden: Hrand D. Andresyan. 1952. İstanbul.

H.A.R. Gibb, and Harold Bowen, 1957. *Islamic Society and the West*. vol.1, part2. London.

Pars Tuğracı, 1990. *The Role of The Balian Family in Ottoman Achitecture*. Yeni Çığır Bookstore.

Pars Tuğracı, 1991. *İstanbul Ermeni Kiliseleri*. Pars Yayın Ltd. Şti.

Pars Tuğracı, 1993. *Dadyan Ailesi'nin Osmanlı Toplum, Ekonomi ve Siyaset Hayatındaki Rölü*. İstanbul.

Vağarşag Seropyan, “Bezciyan, Artin”, 1994. *İstanbul Ansiklopedisi Cilt2*. Ana Basım AŞ.

上野雅由樹 2010. 『タンズィマート期オスマン帝国における非ムスリムの「宗教的特権」と「政治的権利」：アルメニア共同体の事例から』未刊行博士論文（東京大学）